

中央銀行の出口戦略の行方

年初、市場は全般的にはリスクオンモードで始まったようだ。米株高、コモディティ価格の上昇、債券イールドの上昇、新興国通貨の対ドルでの上昇などだ。ただドル円は下落した。ドル安のためだ。

この市場の動きが今年の相場の基調を示しているような感じもあるが、確かではない。確かなことは今年から ECB が債券の購入額を 600 億ユーロから 300 億ユーロに半減したことだ。

そして ECB の理事会のメンバーが 9 月で債券購入の終了の可能性を示唆したことだ。

ECB の出口戦略を巡っては総裁のドラギが購入の延長の可能性や利上げが 19 年以降になることなど、現行の超金融緩和政策の継続に重点を置いた言い回しが目立つ。だがこれは市場の受け止め方が金融政策の転換に重点を置く傾向にあることに対するけん制の意味合いもある。

今年の市場のポイントの一つには先進諸国の中央銀行の出口戦略の進行があるが、特に ECB の動向は注目の的になる。経済指標や中央銀行の政策委員の発言などが昨年よりも相場の変動に与える度合いは高くなる。

ECB の出口戦略が早まれば、他の中央銀行にも影響を与える。スウェーデン、デンマーク、スイスなどマイナス金利を採用している中央銀行も現行の政策の見直しに動く可能性が増す。

そして日銀にも及ぶだろう。イールドカーブコントロールの水準訂正などが考えられるが、実際に政策の変更を実行しなくても市場は経済指標や政策委員の発言に一層敏感になるのは前に述べたとおりだ。

新年がスタートした。金融機関などのディーラーも個人も昨年の結果は清算して皆ゼロからのスタートラインに立つ。

年間の為替収益目標額あるいは月間の目標額の達成を課している人も多だろう。日あるいは月単位のストップロスを設定して損失リスクを管理して収益の最大化を図る。

今年が皆さんにとって良い年になることを祈っています。